癡書漫筆

一

共四

1 5
55
1

曾5門1
55號
1卷

序

清人石麗天が談云。人生有二樂。一讀書。二好色。三飲酒。此が謂、都參星屬。奈何〻。余讀之。不覺擊節。曰。不圖此深酒飯囊中。有此星讀書種子也。夫酒色者。人〻所惑也。余斯二者。而取讀書。殆至篤好而弦乎。安御有和尽子者。

桂川甫大氏遺愛館

夙好讀書。研精國學。日夜讀書倉中。名曰擁書倉。藏書若干。摘抉
隱微。考據淹博。銳氣勃勃。猶探虎穴。不得其子。不止。予於友也。苟得
一善。則筆之於書。片言隻辭。掇拾不遺。併錄為卷。題曰擁書漫筆。將以為
續焉。余幼與紅屋同好。始忘寢食。
中年或浮游於酒肆之席。或出入

乎名利之場。夙志不遂。歲月老矣。
紅屋則富於春秋。不懈而益博
審之。學問所至。其可量乎。紅屋居
八達門外。與所居駿臺。東西相
望。一時往來。紅借多思。可以通緩
此之書也。不亦便乎。因序斯言。以
題卷首尔。

文化十三年丙子仲冬之吉

多西大田覃書於

倘林精中

帝國圖書館藏

擁書漫筆巻第一

目録

㊀齊明紀童謡考
○古書をよむべき事
○白無垢の小袖
㊁へぼくらし考
○襷縅
○ふくぐるむ
○むく犬
○手作布
㊂ちくさいもの画詞並考
○京都人高孟麁の事
○草合の圖
○石神
○額烏帽子

○雀小弓
○蒲扇
四 坂向の[illegible]
五 伊藤仁齋の歌 並古学和歌集
六 賀茂真淵縣主の[illegible]里
○[illegible]子の祭文
○詩の[illegible]
七 山岡明阿弥陀佛の歌
○伊香保口遊
○逸著聞集
○類聚名物考
八 坂鼻撿校の歌
九 温古堂塙撿校の歌
十 鴛水長賢の歌

十一 日下部高秀の歌
十二 萩原宗固翁の歌
十三 伊藤松軒が[illegible]
十四 横田袋翁の[illegible]て人々に歌[illegible]る話
○宮重一重の歌
十五 輪池屋代翁の道記
○三好親春の歌
○壬生寺の鰐口
○金鼓
○圓光大師繪詞傳 並翼賛
○賀茂重継の譲狀
○屏繊
○銀閣寺の七賢杯
○宇治の平等院
○扇の芝
○鳳凰堂

○宇治橋並碑文　○法隆寺釋迦像の記文
○同寺藥師像の記文　○多武峯縁起
○粟原寺露盤の記文並四堺の記
○長髓彦の住しし大和の鵄村
○長谷寺石水船　○上野國保渡田の石棺
○聖武天皇の宸翰　○雲居坂
○藥師寺六重の塔の圖並擦銘のそゝ
○臨川寺扳の空華集
○熱田神宮古寫本の日本紀
○連歌の懐紙並連歌師の姓名
○藥師寺元可入道の歌のそゝ

擁書漫筆巻第一

東都　高田與清文儒著

師織錦齋村田春海翁のわゝはされ齊明記童謡考の後按は荷田東滿宿祢賀茂真淵縣主よりたゝはし秘説よ。うゝれ考をゝ見られ添ら給られべそのめぐゝきといいよべゝもあゝれどそゝ中余が抄も仏まれひとつゝをいはゞすゞ摩坎邏矩都鉞俱例豆例は六言四言の句にして真廣據撞の狂つれとゝ義之據撞は舟の名ゝて神代紀上巻ゝ天磐據撞船すゝ鳥磐據撞船ゝぞいよよおゝるゝ都と須と通例は坏を都伎と貢伎ゝも。いゝゝくゝひいとかほうゝ。俱例豆例は狂為

れ。ふて。久留比の約語久利ろれば。俱例もかよくる音く
豆は濁音の字ろれど。紀中かよは用ゝ例あまろり
そは余が古言通音例ゝいけくれぞろにくぶくさて
ろれ二句を四言六言ゝよゝて。矩と清水濵臣が考ゝよく
も拖ふあゝくも真艟衝綱操ゑれといくふゝて解れゝ
ハひがゝくゝ。おは紀の本文ゝ。其船夜中無故艫舳相反と
わるゝゝ舟の前後ゝ狂くゝりゝを。於社幣ハ萬
葉集十四の卷駿河歌ゝ駿河能宇美。於思敝尓於布流。波
麻都豆良下總哥に。麻末乃於須比尓奈美毛登杼呂尓。な
どよめれ於思敝。於須比も。かゝへ音ゝて。儀邊のゝ。
ろれをも於と弘の誤ゝ。上ゝ美の字を補ゝもゝ

いごゝく。美和多騰能理は。村上真澄が說ゝ。御海處來ゝ
て。舟ハ渡津海を乘ゝのろれば渡處乘といい美ハ官船
なれぞたゝへ詞ゝて。御船といふんゝといわ。余按ふ
深海疾乘ゝて。舟は海上を疾けるゆくれるもばかく
る名ゝてもれべ美烏能陛ハ。本文ゝ乃勅駿河國造
船已訖挽至績麻郊とええ所ゝて延喜式九の卷神名
上駿河國廬原郡の部小御穗神社ろれば。そころくゝ。
烏と穗とかゝゝ例ハ。薫を加乎利ゝも加保利ゝと大和
の十市を止保知。伊豫の大内を於乎宇知。ゝそいろこと
ゝ。甲子騰和與騰ゝは。錠の物ふわゝゝて鳴音ゝや古事
記中卷應神の段ゝ。以鉤探其沉處者繫其衣中甲而訶和

羅鳴とあるをもすべあるをきこゆ。片岡寛光は、されとも我
はくらられし舟。一艘ふはうきぬすくれば。此舟と彼舟
との鎧が。はくり觸音と。甲子騰和與騰とうくるろうん
いいつる。さて此歌は二首まるけてくらべし。

摩比邏矩都能 六言 真廣楫そ。真はけもし。詞。廣ハ大なるなり。楫ハ船造材なれハ手
倶例豆例 四言 狂れ。豆と須ハ通音。又潮鳴の音のうりふるもとにかよふ。
於社敝 三言 儀邊。於と。伊と。社と
陀乎邏賦倶 五言 師翁の説。撓撥
能理歌理鳶 五言 乘鞍之。乎ハ此句ハ陀乎邏賦倶
上。やうくくこゆし。

二

美和陀騰能理歌 七言 打上真澄曰。御船之の歌。余按
潮鳴歌の

美烏能陛 四言 薩摩の邊。駿河 薩摩郡の地名。
陀烏邏賦倶 五言
能理歌理賦 五言
甲子騰和與騰 六言 鎧の物。鳥合音。
美烏能陛 四言
陀烏邏賦句 五言
能理歌理賦 五言

因ていう。およそ古書の旨を解んとかくべし。
臆斷して字ごとに改べからず。ふるき真面目のうしなふ。解
べきおもむきは解あらん。みなひいらぐきかーはさてた
べし。ちからもとの古学者がくせとして。これを草の

字より。おもは字體の似たるなどこそ。なれまし誤とし引ふ所なるは。えあらずとなさく。曾丹集ふ。「へたくてぐ塩竈の浦なれの袖乃上毛と」おもつるなんやそ。異本ふ。上毛をうげふにくきり。まこと同集ふ。源順が歌を載られみ。「へたくわふとさだりの歌」敦忠江の芦向をうけて拾遺のる。散木集夏部詞書ふ。故大殿の壯政所くり歌繪をくまりて。これふ歌まこあくやてたてをとをれば。庭ふへとらてをのすゑさふ。詩もうたてり。さふ部ふ女をめて居もをよえふ。「新ふ」ふあくらける。同集戀上ふ。大夏の歌絵の中ふ男

はけるをこれをくふ。おひたりあるまこへ「といへる物あるふ。「たるをそ」りあるふをよるふ。「てをもいざこはいこを手をくうたうふ人をおもいをふ。これられ歌や詞書を考ふ。へたくわを相作のうて。歌をすみ合をしは。唐土れ相作女をいへれく。和名抄織機具部ふ。野王按綜機縷持絲交者也。和名閉。和漢三才圖會卅六の巻。女工具部ふ。綜音宗。和名閉。俗云加佐利又云毛知利此與屈之訓同故忌之曰飾乎。ちどえて。武藏相摸ふ省ふて。綜足とも。綜臺ともいふ。さそふ綜箸といふりれりて糸をこふ。かるくへ経めぐて。さて機をこ。ちもこ経めぐ

ちはやぶるかみよにはいとをくべし。万葉集十六の巻。竹取翁歌ふ。打拷者。経而織布。日暴之。朝手作尾。古今着聞集和歌部ニ。[illegible]柳乃[illegible]ぶりの糸をくりかけて[illegible]ぬきて[illegible]ぬきてはたりそをるく。そをもよりて。まづ絡絲女が糸をひもぎあらく為て。相作が綜て。挑文師がわやぐりて。織手がくくりおりく。延喜式十二に巻中務省式。諸司員の條ニ。織部司四十八人。正一人。佑一人。令史一人。挑文師二人。織手四十人。機工。相作。在此數内。絡絲女三人。どいう。挑文師挑文生い。結綜成文者ふくよし。職員令の義解。集解。おりたてゆ。織手は機織者こ。機工い機打の具をいくる工く。相作い綜臺ゆ。糸を経わぐ〳〵す者く式の印本ニ。

アヒツクリと訓られいかりしく絡絲女ハ糸をひもぎあらくりおりく蛤草紙ニ。ほもていふものほりすりおりまくば。そぐらやぐそくそぐ糸すくえてくりきり。これ苧をひもぎるけしおもそ。けりろくきちえれ。くりのそ絡絲女がちくぐれをあくく式ニ相作とゑ。そ万葉ニ安布の安と省て布の假字よりちいくれば。こゝは安幣とくみて安をくぶくりよくハ字書ニ相共也。扶也。助也ゑぐくえ延喜式七の巻。踐祚大嘗祭式抜穂の条ニ。共作二人ともあれハ。織手を賛相て功を成の義をとれるゑてもあくぐ。さてこくゑ。鶴氅鷂氅鶡鶡ゑぐ。鳥毛をよりて合てわりをせる衣。あまくきゑ

えぐれぐ打とゝ たぐ〳〵 毳 かぐ いふも 細弱か
ば鳥毛 すておもゝ〳〵 裘 ゝゑ 也。中國 もゝ 俊頼口傳上巻
五十則 ゝ。げゝの 細布 ゝゝ いふ。これ をみちの ゝ。
おゆ〳〵 てゝ ゝけ の 布 ゝ ゝば。袖中抄十八 巻。げゝの
ほそ布 ゝ 条。武則 真人 ぐ ゝ ゝ。
ゝゝ ゝ ゝ 猪 の ゝ の ゝ ゝ 経 ゝ ゝ ゝ。ぐ れ
ほゝ ゝ。書言字考服食部 ゝ。白無垢 と 載 ゝ 小袖 も。和名抄
羽族體部 ゝ。文選海賦云 鳧 雛 襦 師説布 久介。ゝ ゝ ゝ と
ゝ ぐ。布久介 の 裘 の 名 を ゝ ゝ ゝ べ ゝ。布 と 牟
い通音 ゝ。白 襦 褄 の 小 袖 と ゝ ゝ ゝ べ き ゝ 省 ゝ ゝ。和名抄 毛
群類部 ゝ。唐韻云。獷 深 毛 犬 也。和名 無 久 介 以 治。空穂物語

翁 ゝ 宴 の 巻 ゝ。ぞ ゝ ゝ ゝ 牛 ゝ ゝ ぐ い ゝ
中将 ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ て。ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ 耳 ゝ ゝ ゝ。
字鏡集八 ゝ 巻。打部 ゝ。猪 ゝ ゝ ゝ。色葉字類抄 无 ゝ 部。動物の
條 ゝ。獷 ゝ ゝ 多毛大也。 駕 ゝ ゝ。猪 ゝ 羊犬巳上同。新韻集牟 ゝ 部。
平 ゝ。駕 ゝ ゝ 犬多毛也。 猪 ゝ ゝ。犬多毛。 猿 ゝ ゝ。平他字類抄動物部。
平聲 ゝ。狀 ゝ ゝ。童蒙頌韻江三 ゝ。猪 ゝ ゝ。倭玉篇下巻。犬部
ゝ。獷 ゝ ゝ。猪 ゝ ゝ。倭訓栞牟の部 ゝ。椋鳥 ゝ ゝ ゝ 侶 て 群
飛 ゝ。鶚 の 類 ゝ。ゝ ゝ ゝ ゝ は 別 種 ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ 味 ゝ
ゝ。ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ 毛 羽 の 細 弱 ゝ
ゝ ゝ ゝ 名 ゝ の ゝ ゝ ゝ。同義 ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ。ゝ
新撰字鏡髟部 ゝ。髩。鬢髮乱也。不久太女利。童蒙頌韻東一

ふ。氈フクダム。氈フクダム。塩嚢抄一は巻十五條は。氈氈ソフクダ
ムト讀。空穂物語國讓中は二巻ふ。ぢぢもおほの
だりつくりもれど。いとけらつくりげ。
源氏物語五葉は巻ふ。そぐけそくちみそれ
びんぐき。枕草紙春曙抄九の巻。風といふ条ふ。数ハ風
ふ吹まくにたもて。すらすらとふくぶくそ。かふふ
うすたうほど。まらすにめでぶ。ふどあらぶくだらも
モけくすりて。襦袢ふひ。日高川恵詞上巻ふ。旅行男
ぶ。ほれの女ふ丸き餅をさーやふそぐけて。詞書ふ。
たびしてはらるすうるりてんぶ。ぶくぶやー
ふくせるてあるふ。餅のすくらなるるを襦袢ふ

多くふ。ぶくぶくちいとふ巻き代省ー詞なるん
坂東の田舎人ぶ。あべ川餅をふきだをーとふぶ。ふく
ぶみりられあやほるふ。塵添塩嚢抄三は巻廿七條ふ。
餅ハ福ノモノナレバ。といへるハ本末をありいたりへーふ。
ぶくだふふふ名より福徳の義
ふぶー。さて糸紙綜へと作ふふは。万葉集十四の巻武
蔵哥ふ。多麻河泊尓左良須氐豆久利延喜式十七の巻。内
匠寮式ふ。手作布新撰字鏡系部ふ。紵。繡白布細也豆豆久
利日本霊異記中巻。力女示強力縁の詞釋ふ。蔓豆都九里。
和名抄絹布類部ふ。唐式云。白絲布。今按。俗用手作布二字
云天都久利乃沼乃是乎。改事要畧六十七は巻ふ。今按築

荷擔之者。奴婢僕從之徒。不知身分好著手作。權記一の巻よ
手作布百端朝野羣載十五の巻。手作布陸段。などある手作
布。やうの布。なども後三年繪詞下巻に。みられ
たるは。そぐるに仕めのおとこばらもがりとうんいい
人。調布と白絲布と混雜て同物とせるもいときいぐと
く。和名抄。調庸布は豆岐乃沼能と讀て。白絲布とハ
別る載たり。豆岐乃沼能といふを。貢調の布なればなり。
やうやういぐれの繪詞一巻なり。奥書ハ年中行事追加。
詞書三位雅經。繪土佐光長なる由。輪池尾代翁曰。年中行
事追加なるはなほ詳きなる。やはらん花ハ

世俗よりなほ詳なり。年中行事ハ入ぬきのれ文あるに
ら云云。其詞書の全文ハ云。
三月十日 再雄寺 童 行 誦 舞 家 留 令舞 夜須 礼 号 元
糸平のめけ ぐるまいりあるいぐ
てゆくと。我 數 ぐるまを やすらい
右ハ巻首にあり。まく中間ハ。
もをれ法華會ハ。をんなまりあくり。
ぐるまのかゝハ詞書ハ。百練抄七の巻。久壽元年の
條に。四月近日京中兒女。備風流謂鼓笛桑紫野社世号之
夜須礼。有勅禁止。夫木抄雜十六。釈教部に。西行上人

ゞれ那とてよもやの。高雄寺にてもあるべきなれども
十とせらいぜるかと敷うつし。山城四季物語二に巻。三月
十日紫野の今宮にて踊りに踊る。或説に高雄の
神護寺の法華會なるべし。やはり障りなきをば賀茂今
宮に祈念して。悪氣をなぐめんとて。とぶらをおこなる
べし。ばかりなるとうや。さらばそれより高雄の法華會はや
もとうとてよとせーと。いろはにほへとちりぬるをわかよたれそつねならむ
いとなく。あさきゆめみしゑひもせすと。誤しうや。歌林拾葉
集十二に巻。第三條に。大徳寺のうらより萩野とりて
り。三月十日。其邊に祭し安樂花と名ぢく其日賀茂上野
村の里人ども多くに装束を著つゝ。鼓笛をうち吹。踊り

ゞ。抑は幣なるべしかけうちのぼりけるとて
反りて。その中に抑の伺に花とあるは花や
といひて。抑子をうち反りめぐらすあり。山城名勝志十
一の巻に。高雄寺縁起云。法花會三月十日。紫野にくあるほり
くあるほりてきたはは法華会やうにて。らいに
べきを。かくなるにこそや。山城志一の巻。京師神廟部に今
宮祠云云。三月十日花鎮祭。謂之也須良飛。其書軸在祝氏
家。また洛陽名所集八の巻。毛吹草三月の部。篝纏輪三月
の部。増山井三月の部。俳諧新式三月の詞部。なども掲よい
いとうと考てこそ。輪池翁の夜須礼花考に。日次紀
事。摘窓自語。朝野雑記。滑稽雑談。都名所圖會。なども引てく

高嶋千春

十七～八花画巻
華合の図

ーくいくれ。高雄寺縁起。四季物語。などれ誤をろうど
雜ら。まく高盂彪ゞ奥書に。此古圖不可考。藤原貞
幹曰疑ラクハ古ノ女田樂トナモノナラン故山槐記ニ
見エタリ。或ハ亦殘夜抄雜藝部ニ云。チナイラコト云モ
ノ故。後考ヲ俟。或人云。宇治殿庭舞圖ナルベシト。何レカ
是ナル事ヲ不知也。いいるれどかを〳〵。孟彪字ハ孺
皮号を芙蓉。安永天明の比。京都ゑ住て。古篆印章
の古製あゞ考得ーくく。此画巻の中ゑ草合の圖のええ
たゝと。今くくよりうに。草合ハ和名抄雜藝類部ゑ。荊楚
歳時記云。五月五日有鬬百草之戲。鬬草此間云久佐阿波
世。七修續稿四の巻ゑ。風俗鬬百草之戲。獨盛於吳。故荊楚

記。有端午四民鬬百草之言。未知其始也。昨讀劉禹錫詩曰
若共吳王鬬百草。不如應是欠西施。則知起于吳王與西施
也。るゞこゝり。傍ゑ道祖の叢祠。石神。青石佛。頷烏帽子ーける
小童雀小弓射ゝ小童。蒲扇を腰ゑさゝせゝ老夫。るゞをえ
がりゝ。石神ハ道祖の神歟。て。今も坂東の國〻ゑ。圓石
と称ゝ。これ〳〵いし神。ゝゝ。ゝゝ。
ゝゝ。武藏豐嶋郡の石神井。足立郡れ石神。ゝゝ。
村名。れゑおゝゝなゝゝ。額烏帽子せゝ小童ハ。今
の前髪童れゝゝ。夫木抄雜十四。弓の部。西行上人歌ゑ。
ゝあて雀弓ゝゝれゝゝはゝゝいえぼーのほゝげ
ゝれゝゝ。ゝゝゝれゝ刊本ゑをほゝげをほゝげ

誤とす。ほうげそ毛の放乱うるさきとして。輪池翁の説よ
い。夫不抄の古写本にはほうげ和訓栞にほうげ
とあるべきいづれとも。そもそも八が雀弓張にもかぶる
よ似れど。額烏帽子のほうげよりあるべし。いとい
とゞ——い今亡者の幽霊の面よりもとゝ残るもとゝ高嶋
千春が談にハ。今も京大坂にてを亡者のひたいにかぶれ
紙をあて。畿内の國にハ葬送のうかゝ。ひたい紙
とゝるこゝとゝいへり。雀小弓は天暦御記。庭訓往来ふ
どそのかれよあるべし。蒲扇ハ和名抄服玩具部に。
晉書云。蒲葵扇。今按。蒲葵者或木別名也。今称蒲扇者以蒲
偽之ゝ。

坂東の國にて。旅立一人乃ゝ本吋に酒迎して。甲人
打集て酒のゝ古ゝぶくゝあり。廣益俗説雜遺編卅の巻
にもいくりつゝは旧本今昔物語せれ巻。第卅九語に信濃
守ニ成ニケリ。始テ其國ニ下ケルニ。坂向ヘノ饗ヲ為タ
リケレバ守其饗ニ付テ居タリケルニ。守ノ郎等モ多ク
着タリ云云。此國ニハ事ノ本トシテ。守ノ下リ給フ坂向
ヘニ。三年過タル舊酒ニ。胡桃ノ濃ヲ摺入レテ。在廳ノ官
人瓶子ヲ取テ。守ノ御前ニ奉テ奉レバ。守其酒ヲ食ス事。
定レル例也とゝ。朝野群載廿二の巻。國務條〻事の中
に。境迎事あれバ。その古風の残れるゝ。馬のくる
ひけるに對し詔りて。境ゝ乞ゝ名ゝ名ゝ酒迎

とて酒宴ける友の名とあり。誤へ源氏冨屋の巻より冨迦といふもの。
古学和歌集一巻ハ。伊藤維楨ら歌集こ。維楨字ハ源祐號
を仁齋といふ。古学もまた一号こ。七夕の歌ハ。

さゝ〻らなびいい初てるあぐるこのて育なき名のそゝ〻ちゝん。

賀茂真淵縣主ハ。遠江國敷智郡伊場村の百姓の子なり。
濱松の宿れ本陣。梅谷市左衛門ゞ養子ゝゝれしゝゝ。
やゝありてそゝを去。けれ〻東都ゝくだりて荷田東麿
宿祢の学風をひゝうれしゝゝ。
文ハ。家集ゝ。

そゝ人ハ。ゝくゝのあゝよはゝまれて。けゝ紅ゝ
ゝゝ。ゝ。ゝ。

さる侍ふ[illegible]て。それ[illegible]ゐざ[illegible]ばられよ。僧ふ
わがそのんをめでうべふへわれば。やづてうをぬ
ゑを携て来れう。それ[illegible]ばい。ゐざよろびのこと
うざを駈て。ま先んをとること。ずとせまうこをよ
ゑりぬ。さる間ふそれ[illegible]にくれば。おおこうぬ
べきたいこ学ぐそるよ。ぬべ[illegible]と師もいふを聞て年
月より始てよろこべる色たり。我らを今年寅暦六の
こう[illegible]月ばうあより。此人病あつ[illegible]く行きば。それ
天地のすべ神うちふ祈ぎ。都ふ系師を撰つぶの
うぎわたくしとすをど。陰ふ此神毎月ゆ此一日
よ。此十餘六を限こうて[illegible]ん。ゐさりまるうこそかるー

けを抑、此人はんをくして清く物をういじわをれ
べう。ゐるずゑのそぐ[illegible]上塩て。ほうこみ中びうるうこを
わがへり。なえ草れめこ[illegible]いんど。まゐうをれそだぬべ
年んのうるう物を。いうれぐ世ふ幸ゐくこ[illegible]。
終ふゆうふんゑ。系ふこふう設のようをひうく然
ふかくうるれもなー。たぐ行られうそのうこはうそれ
まと。これをこうう。そのうこのはうわがゐのふう
ふ載うれど。後えん人恐めべー。それ子もうれ老て
めうをうれめばこいぐど。猛まうきふまのうがうを
定むべー。さうばゑうれ行ぎばはうりゑと
ーて。おりふ[illegible]。そうふ人ハ[illegible]の

なれまゝくるれぐ。孫よを堀ふかへることゝわと
知て。ふきまは中くふあらふん。たゞうゝ
きゆ。たゞ山うゝ松くれ中ふる人ちかり。
まあく汁をして俗れる名ごりに。老ゞ年ゝ
めるは。いろまぐれ齢ありて。わにをんやて。をみこゝ
ろざしのこうをとゞに。もくゝ枢の前ふ
ゝへんとすゝ。いくゝ同ふしをゝ。
こは。そのちぎきの中に出をれ草稿のまゝなれば。
いぶゝきふゝもゝ又ゆゝこど。そをハをれゝて。さゝぐゝふ
うつゝせるく因ゝ。真淵縣主の年ゝくて。まぐかゝ学

せられゝけどの詩。世ふゝほへゝれゝれゝをゝ人ゝれ
ど。ゝゝ年けゝゝいゝ。まをゝ後。年かゝてはゝ
をゝをゝをゝをゝ。岡部日記ふ。をゝゝ山をゝ。
あふがれ湖又ゝゝん。けゝきおばをゝ。かゝをゝゝ
入江ゝゝずゝいく。詩ゝゝまゝ。年ゝいゝゝれば。
ゝゝゝゝをゝゝぬ。おどゝれゝゝき。
山岡俊明のゝは。老ての後入道して。新發意明阿弥陀
佛といゝゝゝ。實暦十四年とゝふゝの比ぐゝ。上野
國の伊香保ふゝけゝをゝゝれゝ日記ふ。伊香保ロ
遊ゝて一巻あり。膝折の里まで。
あくの名ふゝゝゝゝれゝ馬のひぎをゝにまゝふゝ。

大和田といふ人ありて。
さく桜一枝ふる枝とかぞへつゝ経ぬるかなしさ
おぼえそれはうえしゝ。そのこゝはされ書るあるべ
きこゝろうが中ふ。類聚名物考三百六十巻あり。ほゝ常
ふ諸諸を好て。逸著聞集といふ。ものゝ書をも。ほゝ
けりとろん。
寶永ごろ。ふとしれてゝ。抜鼻検校といふがたり。やごと
ゝ戸殿ふ扈従ゝ。ゝ。信濃のゝふ。おぐるて山のゝ
すぎけりふ。そのゝ。ゝ。ゝ。
ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
殿。ゝ。ゝ。検校。

ワ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
輪池屋代翁の談ふ。塙検校ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
検校名ハ保己一。号を温古堂と称。学校をおこし。群書類
從數百巻を校訂して。刊本とせられしゝ。天下の学者ハ
やゝく古書をゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。

さいしべー。

江戸人長賢ハ。号を風絃世称を鶯氷申也といへる醫師にして。真淵縣主より義先輩なりて。歌よ名あり。両方聞郭公といふ題の歌よ。

ほとゝぎす聞こゆ山陰ふかきのはそこの中やく淀の川舟

日下部高秀。世称ハ今條定右衛門といいなり。荷田在満ガ弟なりしに因よりあるる。

夢ちゝはゝそなりもる夢ふそからまくがいふふてます。

薔薇と。

ちつるさんとちがてくぐきつるむとしたぐへてそやれ。

百花庵萩原宗固は。江戸市谷木村比久尼坂なり。鈴木氏

の家よりまれしにして。四谷左門町の萩原氏ガ養子となりて。世称を七左衛門源貞辰といふ。いとゝ〳〵つきしの人。

冷泉家の流をくゝて。夢中郭公よ。

夢ふとや枕なくべてわれくゝきるる秋ふるの山ほとゝぎす。

としよ長點ゝゝ歌をよゝ。後よ烏丸内府光榮公の風をあふぎて。松宿月よ。

りかぬる木の皆のうげけよりくゝをとても月ハまつの下庵。

萩萩と。

舟とゝ秋てくゝきたづます湊江よ義の美さゝぐ秋の南風

あどいよ棄詞ありし歌をよめり。内府薨ゝ後ハ。

武者小路左少将實岳朝臣ふまゝびしよ。これも世ハさ

らせるひゝうば。師とあつぐ方ゐくて。まごころうゝゝゝ。
やゝゝゝゝゝき殿のおほせゝゝ、冷泉為村卿の門まは入ゝ
く。晩年ゝ四谷荒木横田ゝゝな家をゝゝてすゝ。天明四年
といふゝゝれ五月二日齢八十二ゝて死まゝゝゝゝき。
その著書あゝゝゝゝゝ

り。おほやけのまつりごとのことなどをもしるしたるものの紀行こそ中ゝ考据のたよりとあらぬべきこゝろぶかうしるしを。今こゝろゆくまゝに抄録してこゝに加へあゞ〇上巻十一月四日の条に壬生寺去去。正嘉元年の鰐口。是は毎春念佛會ふるつゝと云云。此鰐口に奉鑄顕金鼓一口。と彫てあり。是をもてづんぐは今いゝ鰐口にこゝにしるしたれば。

〇同五日條に。智恩院へ行。圓光大師繪詞ねゝ。繪は土佐吉光。詞は伏見院。後伏見院。後二條院宸翰。轉法輪三條實量卿。青蓮院尊圓親王。世尊寺行尹卿。同定成朝臣。姉小路慶流濟氏卿筆。外題は尊圓親王。法然上人行狀畫圖

とゝ。ゝ。ゝ。結構。筆者目録は冊子にて。安井道恕僧正筆。筆筍外題も同筆にて。作字にてあり。繪初二三巻は殊にまさりたれど。次ゝは筆もかろうゝやうに。ゝに行。ゝ。摺本引合ゝ。殆れあまりに相違せり。いぶかしゝ。寺傳に聞けば。尚麻の眞院にて一部。ゝ。ゝ。ゝ。ぬ云云。與清曰。ゝにゝれてゝ。大和の西巖寺の古閑和尚が写されしとぞ。刊本は繪入の大本にて。詞ゝの小本と。翼賛と。三種あり。〇同九日の條に。甲斐權守より借たる文書曰。讓與屋地並資財等事。合五間四面寢殿一宇。十三間廊一宇。三間一面

侍屋一宇。三間二面車宿一宇。七間三面雑舎一宇。
五間二面倉一宇。七間一面倉一宇。三間一面倉一宇。
湯釜四口。一口六斛納。一口五斛納。一口、戴斛納。一口、解納。敷地伍佰。右件家地、湯釜並
自余内財等、譲與散位賀茂重保處也。敢不可有他妨於地
者俊家母之私領也。造件屋等所付与也。不可有他妨之状
如件。仁平二年十月十二日。神主従四位上賀茂縣主章名
あり。後人のために重經神主と云ふ。岡本備中
守といふが家蔵。橋本肥後守がいふ中う。賀茂祠官系
圖。重助のもと重継とあり。卒去の年月即この文
書と符合すといふ。たゞしそれく今の林氏の祖なり。祇
園女御の兄なりとぞいふ。同十四日の條。南禪寺へ行云。

亀山院の御輿。御屏繊いろ。美麗なりのこさいろ。傘笠
考ふ。御屏繊のなりさぶらふ。今日しるかく
うるはしくをぶらふ。延喜内匠式。野宮装束の中に腰輿
一具。屏繊二枚と見え。山槐記に。鳳輿在西廂。東弘庇有屏
繊二枚。此事可相尋。相具腰輿。なるべしとぞいふ。
○同日の條。銀閣寺へ行。七賢杯。七賢の名をうるあり。○同十七日の條。平等
院。匡房卿の手学あり。北向の門。ぶだう
り草。残りぬ。翁の造鳳凰堂。釣殿。ふるめかしう。鳳
凰堂は宇治殿の作なり。靠の絵は為業。色紙形は堀河
左府云云。與清曰。翁の造い道堅家集。雪玉集とぞいふ。

宇治の平等院なども。水政が扇の芝などの名をとりて。
[illegible]橋をもくば若しくその名をもとれるなり。
[illegible]。○同條に。橋寺云。[illegible]石に文字をもえ
つけ。ほりなどくよくえとも。宇治の碑くもて。[illegible]
こもつ。文字は四字づゝ續て。二段三行あり。三段の初
一字ばかりあり。それ文は。

修。世有釋子。　浣浣横流。　其疾如箭。

爰發大願。　結。　名曰道登。　出　即因徴[illegible]。

帝王編年記に。[illegible]　以上廿七字あり。全文は
道昭と云[illegible]。水鏡に。宇治橋は道登造りといし。編
年記に。元興寺の道登。道昭奉勅造といへり。[illegible]を日

本紀に[illegible]。續日本紀道昭が傳に。山橋を造る[illegible]
[illegible]て。道登が[illegible]。元亨釋書本朝
高僧傳に[illegible]。[illegible]。石文の
[illegible]。道登[illegible]。[illegible]
[illegible]。[illegible]。道昭は力をあはせ[illegible]
梁[illegible]。道昭は力をあはせ[illegible]云」。與清曰。此
碑銘の殘缺は。集古十種碑銘部に載られ。全文は帝王編年
紀九に卷孝德天皇大化二年の條に。元興寺道登道昭奉勅
始造宇治川橋石上銘　浣浣横流。　其疾如箭。　憧憧征人
停騎成市。　欲赴重深。　人馬忘命。　從古至今。　莫知
船竿。　世有釋子。　名曰道登。　出自山尻　恵満之家。

大化二年　丙午之歳。搆立此橋。濟度人畜。即曰徵
善。　爰發大願。　結曰此橋。成果彼岸。　法界衆生。
○中巻。十一月廿日の條ふ。法隆寺へ行云〻本尊ハ釋迦
如來。名方位鳥佛師ハ作〻。後光の〻〻龍文彫てあり。
銅像ふ。そば文字のかけうあるしるし。年久〻〻塵
積てれば。あぐ手ってうしるべず。其文曰法興元世一年歳
次辛己十二月。鬼前太后崩。明年正月廿二日。上宮法皇枕
病弗愈。于食王后仍以勞疾並着於床。時王后王子等及與
諸臣深懷愁憂。共相發願。仰依三寶。當造釋像尺寸王身蒙
此願力轉病延壽。安住世間。若是定業以背世者。往登淨土
早昇妙果。二月廿一日癸酉王后即世。翌日法皇登遐。癸未

年三月中。如願敬造釋迦尊像。並侍及壯嚴具。竟乘斯微
福。信道知識。現在安穩。出生入死。隨奉三主。紹隆三寶。遂共
彼岸。普遍六道。法界含識。得脫苦縁。同趣菩提。使司馬鞍首
止利佛師造。とあり。此記を推古天皇廿一年の文〻。法興
元世一年は。推古天皇廿九年とあ〻る。此号聖德太子の
善光寺如來へ行のはされしに云と用らとしるし。塩囊
抄とうとうる。其他所見るしすべく此數の号まとめ
ばいろるけるるやたくどりるるしても中元庚申
よりる石盆をけよ。中元は光武の年号るとも。庚申
年。庚申ハ明帝の永平三年と。まと古磚よ。大鵬とあれ
ら。さとよ考べれよとのたまとよ。徐氏筆精るどにええ

ばかりにく。鬼前太后ハ太子の御母。穴穂部間人皇女と
法皇とハ太子をさしたく。王后とハ太子妃膳氏と。推古紀
ハ。廿九年春二月己丑朔癸巳太子薨。平氏傳ハ。春二
月。太子と妃と同日ニ薨ぬ。是ハ手白香ひ
ぬ。鞍首止利ハ。推古紀ニ鞍作鳥と紀され十
三年夏四月。為造佛之工ぬ。えうと人と。又うとはらと
藥師の像あり。それく狂年もとぐらをうる。是も光背ニ
記文あり。池邊大宮治天下天皇。大御身勞賜時。歳次丙午
年召於大王天皇與太子而誓願賜我大御病太平欲坐故
將造寺藥師像仕奉詔。然當時崩賜造不堪者。小治田大
宮治天下大王天皇及東宮聖王。大命受賜而歳次丁卯年

仕奉されと推古天皇十五年丁卯の歳の文ハ。池邊大宮
治天下天皇とハ用明天皇の宮号。小治田大宮治天下とハ
推古天皇のかもと。東宮ハ聖徳太子ハ。そべく此堂内ニ
ありとかの佛像ハ。いつれもく わやく くたへすして。それ
常なるハ。これ記文とも舊跡幽考ふと。玉林抄を
うて出されとも。今もかくのごとき。こをば。そふとるく
もなきまや。山表とをしうぶ摺偈せくぞ。あくはそしてぐ
めるる。○同廿五日の条ニ多武峰西門ニ入て。神の
社ちの客院ニ宿ると云云。廿六日去。本社ニ詣云云抄
ちの縁起繪詞四巻。りとは上下二巻とあしを。元禄の
比修補の時ニかくるとい。繪ハ土佐光信。詞ハ一条禪閤外

題ハ近衛基熙公也。○同條ノ。粟原寺の塔の露盤。寺いるゑぬとて。露盤ハ〻〻の宝藏ナり。記文曰。此粟原寺者。仲臣朝臣大嶋。惶惶誓願奉爲大倭國淨美原宮治天下天皇時。日並御宇東宮。敬造伽藍之。尓故此貴朝臣願田以甲午年始。至於和銅八年。合計二年中。敬造伽藍。而作金堂仏造釋迦文六尊像。和銅八年四月。敬以進上於三重寶塔七科鑪盤矣。仰願藉此功德。皇太子神靈。速證无上菩提爲願七世先靈。共登彼岸。願大嶋六夫必得佛果願及含識。俱成正覚。この記文ハ。中臣大嶋ガ。天武天皇の皇子草壁王の奉爲ニ建立セリ。和銅八年ハ。皇子薨ドあひてより廿七年ニ。記文の初ニ。寺壹院四至限東

竹原谷東岑。限南大岑。限樫村谷西岑。限北忍坂川。とあり。同ジ所のりあらはるゝ。かゝる寺の事ハ釋書にもなし。かゝるこゝ。○同廿七日の條ニ。式上郡ニ。衆殿村。金屋村。右ニとび村ニ。日本記ニ。長髓彦ガ住ル所ナリ。○廿八日の條ニ。長谷寺諸堂一見す。云云。樓門の前ニ石の水船あり。ら上野國保渡田にある石棺ニ似タリ。竪一丈餘横五尺餘。高二尺五六寸あり。作水船ニ作ル。思ハれば。○十二月朔日の條ニ。東大寺ハ士士。盛衰記ニ。聖武天皇の。我寺興復せば天下興

復ちん我寺衰弊せば天下衰弊すべし。されば況又ひ
がれの板ふるるが。ほそくあり。金銅の銘文とぞ
いふる。寺僧は鐵簡といひ。銅券といふ。
いふ。又曰。菩薩戒弟子皇帝沙弥勝満。誓願十方三
世諸佛法僧。去天平十三年。歳次辛巳春二月十四日朕發
願倆廣為蒼生。遍求景福。天下諸國各合敬造金光明四天
王護國之僧寺。並寫金光明最勝王經一部。安置塔中。又造
法華滅罪之尼寺。並寫妙法蓮華經十部。住尼十人。水田十
町云云。以上表ふ。東大寺。施封五千戸。水田一万町云
云。天平勝寶元年。平城宮御宇太上天皇法名勝満。
當寺四至の文書曰。東大寺。奉勅。依此寺定山堺四至。北

一堺菅川川上高峯二堺。梅木横峯三堺。鳴川北横峯。並梅
谷東四堺馬勝坂。又外改所東峯五堺。内合井津谷。南六堺
仙房。並御笠山口。七堺寺薗西八堺興福寺。乾角九堺野馬
道。並冨羽北坂。合右圖堺。勅定如件。天平勝宝八歳六月九
日。大僧都良辯。少辯従五位下小野朝臣田守。治部大輔
正五位下□王。造寺司長官正五位下佐伯宿祢大伴國公
従五位下播美朝臣。かくて紙のたぐひ。良辯の
草名あり。そは翔て草名のたぐひ。しかるに。宸翰の勅書曰。
寺料。其造寺事了之後。壹仟戸者。用修理破壞料。肆仟戸者。
用供養十方三寶料。永年莫動。以為福田。伏願以此无盡之

財寶。因施无相之如来。普度七邊之有情。欲證无餘之極果。
天平勝宝元年平城宮御宇上天皇法名勝満藤原皇太
后法名。今帝法名隆基。字様八行書。して磊落。○同條ゑ。
日工集ゑ。雲井坂近来六寺一額字則弘法大師所書。昔有
龍出自井中奮撃寺門額字。今爪痕尚存。とゝえゝり。
けりして茶の坂を雲居坂といふ。○十二月六日
の條ゑ。薬師寺へ行云云。六重の塔云云。天武天皇の御宇
ゑ草創云云。かゝすぐれ池ゝ底下ゑあり。こゝさ十六丈。空
輪のもさ五丈ほどゝ。さて九輪の心柱をくゝて。
堅の上ゑかけいこゝを露盤といふ。方五六尺もあるん。
高さは二尺ばかりなり。露盤のうゑ。上のひらきゝゝ

鉢のさゝゝくふらゑ手をかけて。いはくて
露盤ゑ。ぶ。年ごろ南ゝ
方ゑゝゝあり。塔の心柱をば擦といふ。順朝臣の和
名抄ゑゝゝれで。擦の銘といふべきく。さくの露盤ゑ銘
ゝゝゝゝゝゝゝ云云。與清曰。輪池翁が銘を揚げられ
しゑゝ。まゝ銘の注釈ゝゝ奈佐氏ゑ記ゝれしゝ。薬
師寺擦銘釋ゝて。刊本一巻あり。○下巻。十二月十日の條
ゑ。天龍寺塔頭壽寧院ゑ云云。臨川寺坂の空華集
ゝゝゝゝ。十二行廿二字。外集の序ゑ。延久己亥春。中正典圓
月跋ゑ同人ゝゝ。貞治戊申春ゝゝり。○同十九日の條ゑ。
熟田宮云云。古日本紀十五巻ゝゝ。十六巻あるべきゝ

大和國藥師
寺圖

高嶋千春

第十一の巻かけるなり。十五の巻仁賢紀の奥ゴ。金蓮寺四代寄進。南無阿弥陀佛。永和二年六月一日と見えたり。添状ゴ。奉納熱田太神宮内院。日本紀用巻。十九巻第一巻上下共十六巻依灌宮司祭主尾張仲宗所望。四條金蓮寺四代上人。御奉加之圓福寺三代嚴阿所申沙汰也と。

きぬ。

懐紙く。一二七八の四巻は白紙なり。其餘ハ。沙弥真覚。灌少外記周清。沙弥宗恵。沙弥元可。顯阿。元威。祖月。清阿弥陀佛。也阿弥陀佛。連阿弥陀佛。宣阿。相阿弥陀佛。眼阿。従三位為量。浄阿弥。道周。藤原秀繁。琳阿。釋阿。灌上座全乗。沙弥云友。沙弥元委。嚴阿弥陀佛。左衛門尉盛家等。廿四人の懐紙。元可は藥師寺次郎左衛門の法名なり。三首懐紙

十三枚あるなかの内ゴ。嚴「めのきとめぬるのとなりの嶺ゴ」

いくみだれてふるあられかな。世ゴ。

さやけき元可集ゴも入てなり。我持なりは。ちぐさてふ

ふるさとあられ。うゴ。

なりしよ。ゴ懐紙ゴ。

永三十年。延徳四年の連歌ゴ。延徳のかたは卯月すれ

日賦何木連歌。裏書「ちぐさ」

ドなり。○同廿三日の条ゴ。菊門ゴ。

竿ゴ。

へて。ゴ。節分ゴ。

よい。金谷嶋田。水の上。なごまでおるまでさまく。いそ
の頭はえゝえゝ。あゝらしく紀筆をおて。かうれもまれて。
いぬぎを挟ミ。戸よりさしあしもあるもいと。又葛枝のあと
うた。ひゝらぎよ。ちきをそくたるもえゝ。松嶋日記
まあらは年かゝれはうつうとて。松よりきをうてそく。
ちえゝ。思ひとゝ。去比。與清曰。本朝無題詩五の巻。
惟宗孝言詩。鎖門賢水換貞松。自注。近来世俗皆以松
押門戸。而余以賢水換之故云。あるは。擢を挿ム似さら
ゝゝ。万葉考。摂落兼三の巻。別記。賢水は擢の古名ち
ゝゝ。附録のなるは。擢衡斗升のゆゑ。ちど
ゝゝいれう。まかけとぐきつ。ぬきはるべ

制度通。好古小録などに。引あらせえべきなれく。
元文ゝゝのころ。押小路参議實峰卿の不逢戀ゝ
ゝ題して。

ながゝ川あゝ瀬ハなるゝ舟のいとゝばうゝ思ひそゝし。
ゝまれしを。うくきゝめ。たゝいてはかゝれはうゝ
をゝぐゝせゝ。

嵯峨川今ぞなるゝいとゝ舟のいとゝばうゝ捨ゝかゝる。
津のくゝをばまれ里ゝ波ゝり。慈性法師ゝゝくれぬそ。
きゝまれをゝいゝゝふゝめ。すゝのれくゝ。あれ時。
おほゝけより菊契千年ゝゝふ。鶯をゝほゝゝ。ゝ
なゝとゝゝ。

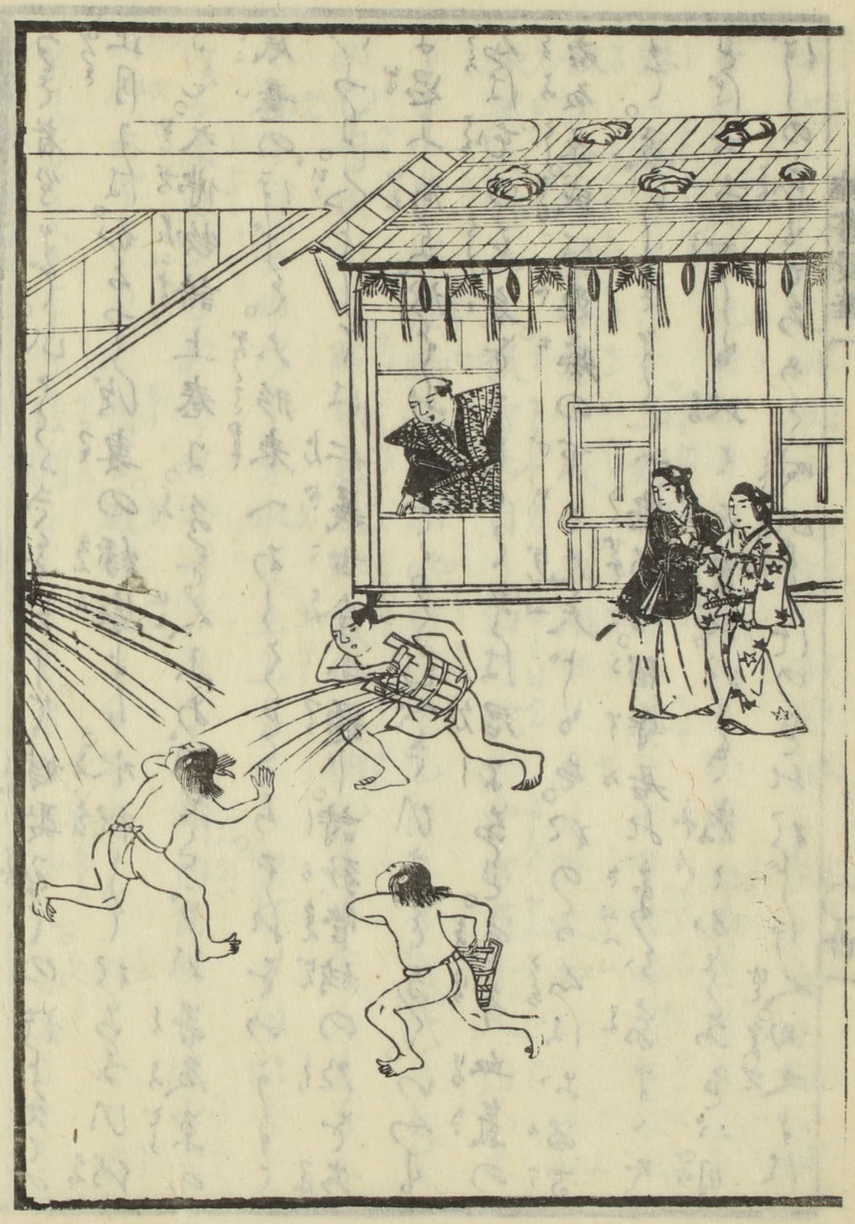
ちぐの秋かすゝぬをと契をさて露さくそ行つ志ゝ葉の色。
こはいろ〳〵ちのもちりけん。元文のころほひよりこの
一。濱の真砂よりいとさらしよこの
粟山源愚ハ字を伯立號を潛峰。世称を源助とい。水戸の
ゐ一山の君よりたまはりしくそなり。保建大記三巻
をあ〳〵浪。富士山の詩よ。孤峰直指九重天。紅旭欲登起翠
烟。影落不知東海大。四時浴雪去来船。

水祝のこと。日次記事正月尾の條。凡新年万事称吉と
いふ。有聚新婦者。則朋友聚其家。入水於桶。大灌其人。
是祓除之謂也。日本紀中孝徳帝紀。粗有其儀。而後其人設
酒食関浴室而謝之。是謂水懸振舞。滑稽雑談一の巻。正月
部に。和俗の去年新に娶し男に歳首若水を祝して。水
を汲みしものの色を水しるしハ水かけるとい。往昔ハ
ゐく。紅緑の比管領三好が家臣松永彈正が。姪女を我
の寵臣に妻合せ〳〵ゆ。山がつ〳〵ゆれ〳〵秋しく〳〵の年て
うゑ。雀。血氣の盛なるゆ。任せて。此戯をなし〳〵ゆ。
ひ。ゆ。小口論鬪諍ゆ。ゆ。ゆ。

ン祝トテ友達相催シ。酒肴ヲ携其家ニ至テ。水ノ祝ヒ浴セル之。是モ元日ヨリノ事也。同六の巻遠部ニ。昔東武ニ殊ニ盛ニアリテ。互怨讎シ含ム基トナリ。喧嘩闘争不止。依テ今世厳制禁ト成テ。水浴セノ名ノミ人知レリ。倭訓栞美の部上ニ。後宮名目ニ。白河院の中宮賀子。入内おとしまつれ。御懐胎のなげきをなげ給ひ。そのもの目れろ。関白藤原師實公参内ゐるとて。ゆうふくにまつりの水を。主上ようらかけさせたまひけり。主上あきれさせたまひ。辮内侍おもは中宮の御大どころの料ニ。殿の祝ぞせ給ふと。斐せしもとし。そもそも後例ニ。建武年中ニ。毎ニ

ちさ者ゆすぐ。ひしくぶきをふして。嫁娶ゑてのはしめ。正月ニは。かしこ〻ゑ妻の縁家より水祝とて。ちゐひ給ふ。大佛物語上巻ニ。ゑをとこ上あびせとゞれ若反系の底意のほどと。人形表へあ〻〻〻〻〻〻〻〻。それをいうすしけり。人〻〻〻は仁義古今ニ通ず。詩歌管絃の道を業ニ思ふ人ゑ。たゞぶとをくゞひぐきひすゝをあ〻。いつも人ゑものを。ゑをすもくしは君ニ忠ある。そゞ血氣の若反系武は愚痴の下〻凡夫ども。れのゞんはお留まる。さびしきをよ〻。悪通の留守居ゑ家ニ系すゝを。ぶゞ古古。ゆゝも比ゝ正月ゑ。ゐくゞき数〻かゝゑゑ。ぶゞ。ぼゝのもゝもろめく。ゆゝ。ぶゞのもれゝけゝ。用文ゑ

十月廿日
画巻
水祝の事



しより合て。水をあびもとる方便ども。もやうは高雑談。
たゞひのんそむく角水をあびせんたびすすぐつの向
谷のあぢくるまは。たゞりたむこうあやまちたせ。けうるまで
ちをる若反京。本望としげて益もあるべし。武道傳来記二の
巻。身躰破る落書の團の段。正月三日のまつりよ若衆
者集りて。いざ文助よ水掛祝といひもとば。このく道で。
無用といふくひとりとやうこと血氣の男まふしてそ拵のほ
どもるく。金箔置の手桶五十。銀箔の柄杓五十。衣装づ
くしの笠鮮十二本。落出の大團扇。竹馬壹疋。籠張の立烏
帽子。門口よ打つけてせ。いそひすして打けり。急使使
を立けり。文助面白て。ひるはもすりとそ者を怪し

て。ちぐらくふりもる中よ。あか中長さるもあて見物立のき
あり。作り地の鉄砲をとゞんと矢く果しけて。の耳こ
立。小義を文年に法度作ることれしよ。今又提を背者や
人さくすべし。
よ。若手室人も紐せざるにふ。兎角そそもりけるこ
落せて。甚道具をえれたるせ。水も浪風もなく。阿波の鳴戸
くをふまりぬ。ちぐりれよりえをよすこてて。その
あるさまり行人べし廣益俗説辨遺編廿八の巻。俳諧波奉
公下巻春部毛吹草二の巻正月部もいで。金玉画府五
の巻浮世又兵衛が圖。十二月遊画巻。すぐるそのあやく
ちをぢけり。漢籍をを外國竹枝詞の附録。昭代叢書巻三八十六の載。八闘

の沙起雲〻の日本雑詠より。綰髪塗歯已嫁郎。瑁梳横掠坐蘭房。爭將撥水稱相賀。索取金錢買酒漿。自注。賀人新娶以撥水為戲。名為油亞呵〻〻〻